

令和8年度
北海道軟式野球連盟十勝支部
審判講習会資料



日 時 令和8年5月6日（水） 9時30分～15時00分

座学会場 帯広の森コミュニティセンター

実技会場 帯広の森平和球場

北海道軟式野球連盟十勝支部

指 導 心 得 (指導員研修会より)

- 1.いつも明るく紳士的に。
- 2.折り目正しく、服装は清潔に。
- 3.わかりやすい言葉で、順序正しく、熱意をもって。
- 4.長所を見出して、ほめることに心掛ける。
- 5.質問に対しては、笑顔で親切に答える。
- 6.答弁に自信のないものは、確認して回答する。
- 7.指導する者として自覚を忘れず、健康に留意して、研修に励もう。

【重 点 目 標】(北海道軟式野球連盟審判技術委員会)

1. ストライクゾーンの確実な把握と一貫した判定
2. ポーズ・リード・リアクト手法の活用
 - ・ポーズ：一瞬その場にとどまり打球の行方を確認し状況を把握
 - ・リード：打球、プレイ、他の審判員の動きを予測・判断
 - ・リアクト：リードした結果に基づき行動を開始
3. 良い角度と適切な距離
4. プレイは止まって見る
5. ジェスチャーは明確に、宣告は明瞭に
6. キレのあるジャッジの実践
7. ゲームのスピードアップとマナーアップの向上

- 【野球規則 8.00「審判員に対する一般指示」】※野球規則 136 頁
- 【一般心得】※競技者必携 210 頁

実施内容

時 間 割		実 施 内 容
9:25~9:30	5	点 呼
9:30~9:40	10	開講式、主催者挨拶、支部長挨拶、役員及び講師紹介
9:40~10:10	30	2026年 野球規則改正について 2026年 競技者必携の改訂について その他
10:10~10:20	10	質疑応答
10:20~10:40	20	移 動
10:45~10:50	5	準備体操、ストレッチ
10:50~11:10	20	基本練習（ジェスチャー・コール） ゴ－・ストップ・コール
11:10~12:00	50	ストライクゾーンの説明 スロットスタンスの位置と姿勢 トラッキング（目の追従訓練） 投球判定（ソフトスからの投球判定）
12:00~12:50	50	休憩、昼食
12:50~13:50	60	準備体操 投球関連動作の確認 各塁における基本的・一般事項の説明
13:50~14:50	60	フォース及びタッグを主体とした塁上のプレイ ランダウンプレイ メカニクスのサイン交換について ※キャンプゲーム（ノック形式で練習）
14:50~15:00	10	閉講式、講評、理事長挨拶、解散

2026年度 野球規則改正

日本野球規則委員会

I. 2025年 米国オフィシャル・ベースボール・ルールの改正に伴う規則改正

(1) 5.02(c)を次のように改める。

① (i)の「投球動作および」を削除する。

② (ii)を次のように改める。(下線部を改正)

投手が打者に対して投球のためにボールが手から離れたとき、4人の内野手のうち、2人ずつは二塁ベースの両側に分かれて、両足を位置した側に置いていなければならない。

③ ペナルティ前段を次のように改める。

本項に違反した内野手が、投球後最初にボールを触れた場合、打者はアウトにされるおそれなく、安全に一塁が与えられ、各走者もアウトにされるおそれなく、1個の塁が与えられる。ただし、打者が安打、失策、その他で一塁に達し、しかも他の全走者が少なくとも1個の塁を進んだときには、規則違反とは関係なく、プレイは続けられる。

本項に違反した内野手が、投球後最初にボールを触れた内野手でなければ、投手の投球にはボールが宣告され、ボールデッドとなる。

④ 【ペナルティ原注】を追加する。

【ペナルティ原注】本項のペナルティが宣告されてもプレイが続けられたときは、そのプレイが終わってからこれを生かしたいと監督が申し出るかもしれないから、球審はそのプレイを継続させる。打者走者が一塁を空過したり、走者が次塁を空過しても、[5.06b3 付記]に規定されているように、塁に到達したものとみなされる。

II. 米国オフィシャル・ベースボール・ルールとの比較検討により再確認した項目の改正

(主にこれまで不記載としていた項目の追記および文章の修正)

(2) 5.06(c)(7)【原注】の最終段落に次を追加する。

野手が、走者をだます目的で意図的にボールをユニフォームの中(たとえばズボンのポケットなど)に隠した場合、審判員は「タイム」を宣告して、すべての走者に、そのような行為を行なった瞬間にすでに占有していたと審判員が判断した塁から少なくとも1個の塁を与える。

(3) 5.07(a)(1)を次のように改める。

① ①の冒頭を次のように改める。(下線部を改正)

打者への投球に関連する動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

② 【注】を次のように改める。(下線部を改正)

投手が投球に関連する動作を起こして、身体の前方で両手を合わせたら、打者に投球すること以外は許されない。したがって、走者をアウトにしようとして塁に踏み出して送球することも、投手板を外すこともできない。違反すればボークとなる。

(4)5.07(a)(2)を次のように改める。

- ① ②の冒頭を次のように改める(下線部を改正)とともに、「(ストレッチとは、腕を頭上または身体の前方に伸ばす行為をいう)」を削除する。

打者への投球に関連する動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

- ② 【注1】を次のように改める。(下線部を改正)

(1) (2) 項でいう「中断」とは、投手が投球に関連する動作を起こしてから途中でやめてしまったり、一時停止したりすることであり、「変更」とは、windアップポジションからセットポジション(または、その逆)に移行したり、投球動作から塁への送球(けん制)動作に変更することである。

- ③ 【原注】の最終段落に次を追加するとともに、【注6】、【注7】を追加する。

ただし、打者が打席に入る前に、投手がwindアップポジションで投球する旨を審判員に伝えた場合には、前述のような投球姿勢であったとしても、windアップポジションとして投球することができる。

投手は、打者が打撃中であっても、(i)攻撃側チームにプレーヤーの交代があったとき、または(ii)走者の位置が変わったときは、次の投球を行なう前であれば、審判員にwindアップポジションで投球する旨を伝えることができる。

【注6】windアップポジションとして投球する旨を審判員に伝えた後であっても、攻撃側チームのプレーヤーが交代したり、走者の位置が変われば、セットポジションに戻ることができる。

【注7】アマチュア野球では、セットポジションに戻るときも、審判員にセットポジションで投球する旨を伝えなければならない。

(5)5.07(d)を次のように改める。(下線部を改正)

投手が、ストレッチを起こしてからでも、打者への投球動作を起こすまでなら、いつでも塁に送球することができるが、それに先立って、送球しようとする塁の方向へ、直接踏み出すことが必要である。

(6)5.09(b)(7)を次のように改める。

- ① 本文を次のように改める。(下線部を追加)

走者が、1人の内野手の股間または側方を通過する前で、さらに他の内野手が守備する機会がない状態のフェアボールに、フェア地域で触れた場合。(5.06c6、6.01a11 参照)この際はボールデッドとなり、打者が走者となったために次塁への進塁が許された走者のほかは、得点することも、進塁することも認められない。

インフィールドフライと宣告された打球が、内野手を通過する前で、さらに他のいずれの内野手も守備する機会がないと判断される前に塁から離れている走者に触れたときは、打者、走者ともにアウトになる。

②【注2】を次のように改め(下線部を改正)、【注3】を削除し、【注4】以下を繰り上げる。

塁に触れて反転したフェアボールに走者が触れた場合、フェア地域またはファウル地域に関係なく、その走者はアウトになり、ボールデッドとなる。

(7)【5.10 原注】の第5段落として次を追加する。

監督またはコーチがマウンドに行った際、投手が他の守備位置に移ったかどうかに関係なく、そのイニングでその投手のもとへ1度行ったことになる。

(8)6.01(a)(8)を次のように改める。(下線部を改正)

三塁または一塁のベースコーチが、走者に触れるか、またはつかんだりして、走者の三塁または一塁への帰塁、あるいはそれらの離塁をアシストしたと審判員が認めた場合。

(9)6.01(h)【付記】を次のように改め(下線部を改正)、末尾に【6.01h 原注】として「定義50オブストラクション【原注】」を移行する。

捕手はボールを持たないで、得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利はない。塁線(ベースライン)は走者の走路であるから、捕手は、ボールを処理しようとしているときか、すでにボールを持っているときだけしか、塁線上に位置することができない。

(10)6.02(a)(1)を次のように改める。(下線部を改正)

投手板に触れている投手が、投球に関連する動作を起こしながら、中断したり、変更したりして投球を完了しなかった場合。

III. その他、日本野球規則委員会で協議した項目の改正

(「プロ野球・プロフェッショナルリーグ」表現の削除、修正。【注】の追加、修正等)

(11)3.02(a)を次のように改める。

①【付記】の「プロフェッショナル野球(公式試合および非公式試合)」を削除する。

②【注1】を次のように改める。(下線部を改正)

NPBでは、金属製バット、木片の接合バットおよび竹の接合バットは、コミッショナーの許可があるまで使用できない。

③【注2】を次のように改める。(下線部を改正)

アマチュア野球では、使用できるバットについては、所属する団体の規定に従う。

(12)3.02(d)を次のように改める。

① (d)着色バットは、規則委員会の認可がなければ使用できない。

②【注1】、【注2】を統合し、次のように改める。

【注】我が国では、所属する団体の規定に従う。

③【3.02注】を追加する。

【3.02注】我が国では、本項(a)、(b)および(d)または各所属団体の規定に違反しているバットは試合から取り除かれ、そのバットを使用した場合は(c)【付記】および同【原注】後段を適用する。なお6.03(a)(5)規定のいわゆる改造バットについては、同項記載のとおりである。

(13)3.03(j)【注1】を次のように改める。(下線部を改正)

【注1】NPBでは、本項を適用しない。

(14)3.08本文の「プロフェッショナルリーグでは、」と(b)の「メジャーリーグの」を削除する。

(15)3.09本文の「本条は、プロフェッショナルリーグだけに適用される。」と、【付記】の「プロフェッショナルリーグ用の」と「プロ野球」を削除し、【注4】を次のように改める。

【注4】我が国では、所属する団体の規定に従う。

(16)4.03(e)に【注】を追加する。

【注】我が国では、天候状況によっては、30分を待つことなく試合を打ち切ることができる。

(17)5.08(b)【注】の最終段落を次のように改める。(下線部を改正)

打者走者または三塁走者が進塁に際して塁に触れ損ねた場合は、守備側のアピールがあったときだけ、審判員はアウトの宣告を下す。

(18)5.10(e)に【注】を追加する。

【注】アマチュア野球では、所属する団体の規定に従う。

(19)5.10(g)(2)に【注】を追加する。

【注】我が国では、本項にある「イニングの初めに準備投球を行なった投手、を」イニングの初めに投手が、ファウルラインを越えてしまえば、と置きかえて適用する。

(20)5. 10(k)【注2】を次のように改める。

【注2】我が国では、ベンチあるいはダッグアウトに入ることのできる者については、所属する団体の規定に従う。

(21)5. 10(l)冒頭の「プロフェッショナルリーグは、」を削除する。

(22)【7. 02注】を次のように改める。

【7. 02注1】NPBでは、本項を適用しない。

【7. 02注2】アマチュア野球では、所属する団体の規定に従う。

(23)8. 01(b)を次のように改める。(下線部を改正)

各審判員は、所属する団体の代表者であり、本規則を厳格に適用する権限を持つとともに、その責にも任ずる。審判員は、プレーヤー、コーチ、監督のみならず、クラブ役職員、従業員でも、本規則の施行上、必要があるときには、その所定の任務を行なわせ、支障のあるときには、その行動を差し控えさせることを命じる権限と、規則違反があれば、規定のペナルティを科す権限とを持つ。

(24)【9. 22注】を次のように改める。(下線部を改正)

NPBでは、`組まれている試合総数、を`行なった試合数、に、`マイナーリーグ、を`ファーム・リーグ、に置きかえて適用する。数の算出にあたり、端数は本条(a)(b)各〔原注〕に準ずる。

(25)定義38(2)の「リターン」を削除する。

(26)定義64の「RETURN」と「リターン」を削除する。

(27)次の項目の「打者」の表記を「打者走者」に改める。

5. 06(b)(4)(G)【規則説明】

5. 06(b)(4)(I)の4行目

5. 08(b)の4行目

5. 09(b)(1)(2)【原注】1つ目の例の3行目

5. 09(b)(6)【原注】の5行目と8行目

5. 09(c)(2)【原注】2つ目の例の2行目

9. 05(b)(4)

9. 12(f)(1)①

定義 28「フィールダースチョイス」

定義 30「フォースプレイ」【原注】1つ目の例の2行目と6行目

以上

2026年4月10日

2026年 競技者必携改訂について（訂正版）

北海道軟式野球連盟 審判技術委員会

()は2026年 競技者必携掲載頁

1. 投手の12秒及び20秒ルールの運用基準(9頁、10頁)

1. 12秒及び20秒ルール

投手は、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合には20秒以内に投球に関連する動作投球動作を開始しなければならない。

規則適用上の解釈(9)(69P参照)

※掲載内容の一部に表現の不備があったため、以下の通り訂正します。

誤)「投球に関連する動作」 → 正)「投球動作」

3. 12秒ルールの適用

② ※審判員は5.07(C)(1)(2)について、チームに正しく指導し厳守させること。(変更)

20秒ルールの適用 ② C) ※以降も同様

4. 20秒ルールの適用

C)ボールインプレイの状態、打者がバッタースボックス内で打撃を継続しているときは、投手が捕手や野手からボールを受け取ったとき。(訂正) <打者に面したとき。を削除>

2. 試合のスピード化・マナーに関する確認事項(15頁、16頁)

4)打者

②打者はみだりに…(サインは必ず打者席内で見ること)。(追加)

アマチュア野球内規 ②バッタースボックスルール(88P参照)を理解し、これを実行すること。

④四球の走者が保護具(レッグガード、エルボーガード、その他)を外すときには、本塁周辺で外し一塁へ向かうこと(ヒットパイピッチの時も同様とする)。(新規)

3. シートノックの(5)を削除し、サイドノックの実施について新規に掲載(本文参照)(35頁、43頁)

4. 15 打者が頭部に…できる。(36頁、37頁)

臨時代走者は、…9人の中から打順の前位の者を代走者と認めて試合を進行する(ただし投手及び投手兼任のDHを除く)。

21 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、コーチスボックス外野側角からボール方向のファウルテリリーでの軽いキャッチボールを認める。また、ブルペンでのキャッチボールは2組4名を認める。(37頁、45頁)(変更)

5. 競技に関する連盟特別規則の 2 延長戦(2)上記以外の連盟が主催する大会を、(2)高松宮賜杯大会、東・西日本1部2部大会、(3)中部日本大会、東・西日本選手権大会にそれぞれ分けて掲載(本文参照)(39頁)

6. 学童部、少年部、女子大会における監督、コーチの年齢を 20 歳以上から 18 歳以上へ変更。
(42 頁)
7. 学童部(女子共)並びに少年部(女子共)の 6 監督がグラウンドに出て指示することができるという
箇所を削除。(2025 年 43 頁、48 頁)
8. 学童部並びに少年部の投球数制限について(48 頁、49 頁、53 頁)
【学童部(女子共)】
④ 1 週間の投球数は 210 球以内とする(4 年生以下は 180 球以内)。…(新規)
【少年部(女子共)】
④ 1 週間の投球数は 350 球以内とする。なお、投球数のカウントは、該当期間中の試合における
実際の投球数の累計によって行う。(追加)
【投球数管理運用】
③ 12 秒または 20 秒が経過し、タイムが宣告されたにもかかわらず、投球した場合は投球数に入
れる。(新規)
9. 試合中の禁止事項(57 頁、58 頁)
1 競技前、中、後を問わず、相手側プレーヤーや審判員に手をかけたり、暴言を吐いたり、侮辱する
言動を厳禁する。(変更)
3 競技場内…(中略)ことを禁止する。また、喫煙可能な場所であっても、ユニフォームを着用して
の喫煙は禁止とする。(新規)
5 投手が手首や…(中略)。なお、負傷等の応急処置として、テーピングなどの使用を認めることが
ある。この場合、担当審判員の許可を得ることとする。但し、投球に影響を与えるものを直接ボール
に触れる箇所には使用できない。(変更)
9 プレイを利用して相手選手を欺く行為に例①②を(追加)(本文参照)
10. 試合のスピード化に関する事項(59 頁、61 頁)
1 守備側のタイムの回数制限
(1) 監督またはコーチ等が 1 試合に…(中略)。この際、投手(内野手含む)にペットボトルやタオル
を持参することができる。ただし、選手を帯同させることはできない。(追加)
- 10 打者について
(1) 打者は、アマチュア野球内規 ②バッタースボックスルール(88P)を理解し、これを実行するこ
と。(新規)
(3) 打者がたとえば判定に不服で、あるいは攻撃側のサイン交換が異常に長くて、球審の督促にも
かかわらず、なかなかバッタースボックス内で打撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審は投手
に投球を命じることなく自動的にストライクを宣告する。この場合は…(中略)。(変更)

11. 競技者のマナーに関する事項(63 頁)

8 投手が投手板に触れて投球位置についたら、大きな声を発することなくプレイを見守ること。(変更)

12. 用具・装具に関する事項(64 頁)

7 アイブラック(アイパッチ)の使用を認める。(新規)

13. 規則適用上の解釈(69 頁、73 頁、74 頁、76 頁)

(9) 投手の投球当時とは、投手が打者への投球に関連する動作投球動作を起こしたときをいう。セットポジションの際の“ストレッチ(準備動作)”は投球に関連する動作投球動作とはみなさない。
(野球審判員マニュアル 第 5 版 57P 参照)

※掲載内容の一部に表現の不備があったため、以下の通り訂正します。

誤)「投球に関連する動作」 → 正)「投球動作」

(28) 投球の義務(規則5.10(g)(i)関連)【先発投手】【救援投手】【継続中の投手】に分けて掲載した。
(本文参照)

(33) 試合に出ているプレーヤーの代走(臨時代走)が認められる場合

(1)(2)投手及び投手兼任のDHを除いた…

削除…2025 年(40)

→投手が自由な足を踏み出さないで、対面する塁にけん制球を投げる場合は、軸足を投手板の後方にはずした後に両手を離さなければならない。軸足をはずすと、両手を話すのが同時の場合はボークとなる。

14. アマチュア野球内規(2026年)(87 頁)

- ・2025 年の③windアップポジションの投手を削除。
- ・⑬正式試合となる回数を削除。

15. 質疑応答(119 頁、123 頁、141 頁、171 頁)

62 答 走者をアウトにしようとする一連の動作で右投手が三塁(左投手が一塁)へ振り向き、踏み出して送球することは正規の動きであるので差し支えない。(5 .07a (1)【原注 2】②)

78 答 windアップポジションでもセットポジションでも、投球に関連する動作投球動作を起こす前なら、投手板に触れたまま、走者のいる塁に送球しても差し支えない。(5 .07a (1)【原注 2】②)5 .07d、6 .02a (1)(4))

※掲載内容の一部に表現の不備があったため、以下の通り訂正します。

誤)「投球に関連する動作」 → 正)「投球動作」

146 答 フェア地域またはファウル地域に関係なく走者はアウトになる。(5 .09b (7)【注 2】)

69 答 ボークではない。しかし、投手が自由な足を踏み出さないで、対面する塁へけん制球を投げるとき、外した軸足が再び投手板につけばボークとなる。(5.07 (a)(2)[注5])

16. 審判上の取り決め事項ならびに注意すべき規則(217 頁、220 頁)

○2025 年 1. を削除

・ファウルライン付近を転がる打球は、一・三塁ベース前までは球審、一・三塁ベースを含む以遠のものは塁審が宣告する。

○2025 年 2. を削除

・ファウルの宣告は、身体の向きは特に規制しないが、フェア地域の方を向いてはいけない。

8. ハーフスイングの際の、チェックスイングの要請 (変更)

ハーフスイングの際、球審が下した投球判定には抗議できないが、「ボール」と宣告したときだけ、監督または捕手は、振ったか否かについて塁審にアドバイスを受けるよう、球審に要請することができる。

なお、バントは定義上スイングではない、となっているが、アマチュア野球(軟式野球)では、バントのときでもハーフスイングのときと同様、球審は塁審にアドバイスを求めることができる。

17. 正しい投球姿勢の徹底 (変更) (224 頁、225 頁)

4. セットポジションから投球する投手は、…〈中略〉。その保持に際しては、身体の前面ならどこで保持してもよいが、同一打者のときは同じ位置でなければならない。ただし、打者によって止める位置を変えることは構わない。(追加)

20. 投球姿勢(ハイブリッドポジション)及び申告に対するサインについて(新規)

塁に走者がいるときに、投手が投手板に軸足を並行に触れ、自由な足を投手板の前方に置いた場合、その投球姿勢はセットポジションとみなされる。

ただし、打者が打席に入る前に、投手が「windアップで投球する」旨を審判員に申告した場合は、前述の投球姿勢であったとしてもwindアップポジションとして投球することができる。(5.07(a)(2) ②[原注]、[注 6]、[注 7])

【球審のサイン】

① セットポジション → ハイブリッド姿勢によるwindアップポジションへの申告があった場合、球審は、「両手を身体前面で合わせ、頭頂部へ振りかぶる動作」をジェスチャーで示す。

② ハイブリッド姿勢によるwindアップポジション → セットポジションへ戻す申告があった場合、球審は、「両手を身体前面で合わせ、そのまま保持する姿勢」をジェスチャーで示す。

※上記のジェスチャーが球審の基本サインであるが、必要に応じて言葉を添えて示しても良い。

18. 審判員の構え、判定と宣告、ジェスチャー(227 頁)

審判員は、すべてのプレイを見たままに正確に判定して、宣告する義務があります。そのために、「審判メカニクス・ハンドブック」に基づき、アマチュア野球規則委員会が各種資料を発行していますので、審判技術の向上に活用して下さい。

よって、競技者必携の試合の開始から試合の再開までの掲載を削除します。

19. 試合の開始～試合の再開を削除 2025年版(224頁～245頁)

20. 試合の終了(229頁)

○宣告用語「礼」

○宣告

②球審の合図により全員脱帽をして、相互に礼を交わす。

2025年②球審は右手を高く上げて「ゲーム」と宣告する。を削除

21. 表記を改めた項目

打者 → 打者走者

投球動作 → 投球に関連する動作 → 投球動作

※掲載内容の一部に表現の不備があったため、以下の通り訂正します。

誤)「投球に関連する動作」 → 正)「投球動作」 肉体的援助 → アシスト

22. 本文の必ずと表記しているところを連盟規程細則にならい削除した。(35頁、43頁、64頁)

23. 審判員に関する取り決め事項4の必ず、を削除する事に伴い文章を見直した。(215頁)

4 試合開始前に担当審判員(控え審判員を含む)は相互のコミュニケーションを深めるために、決まりごと等の打ち合わせを行い、試合が終わったらアフターミーティングを行う。

以上

<2026 北海道大会での重点事項>

北海道軟式野球連盟 審判技術委員会

【審判員として遵守すべき事項】

球審、塁審の姿勢

- 安定した姿勢、ジェスチャーの形をつくる。
- あらゆるプレイについて最もよい位置をとること。

アウト・セーフ・ストライク・ボールの明確なコール（発声）

- 誰が聞いても分かること（選手、観客にお知らせする意識）。
- プレイにマッチした大きな声と大きなジェスチャー。

審判員の役割

- Game Management

試合が始まれば、すべてのプレイ（トラブル、試合進行、大会規則の遵守等）について責任を持って「裁判官」としてその試合を裁いていかなければならない。

→キーワード：ルールを守る、フェア、正しく、スピーディ

マネジメント：試合のコントロール、トラブル・抗議・悪天候・突発事故の処理

審判クルーの協議

- 審判員の視界が遮られたり、ポジショニングが悪くプレイの肝心なところが見えなかった場合、また判定および規則の適用に疑念が生じた場合には、躊躇せずに同僚の意見を聞くべきである。ただし、確信がなければ同僚の審判員全員に聞くこともよいが、あまり度を越すようなことがあってはならない。

協議を長引かせることでいたずらに試合を停滞させてはならないが、紛糾した問題を解決するには、たとえ長引いても、規則書を調べその解決に万全を期す。試合は、しばしば審判員の活気ある真剣な運びによって、より以上の効果をもたらすものである。

- ※ 明らかに違った裁定を下した審判員に対し、協議を勧める場合「協議した方がよい」というサインを用意しておくことも必要。しかし、裁定を変えるかどうかの最終判断は裁定を下した審判員にある。

【試合前・試合後のミーティングの重要性】

○試合前のミーティング

基本的なルール確認、クルー間の約束事の確認・疑問点の解消、グラウンドルールの確認

○試合後のミーティング・反省

その試合で感じたこと、起きたこと等、お互いが率直に相互研鑽のため忌憚なく技術上の意見交換をすることが大きな意味をもつ。まずいプレイがあっても「良かったよ」と褒めて、陰でけなすことは好ましくない。相手の人格を傷つけるような発言、一方的にしかりつけるような言い方は避けねばならず、注意の仕方、褒め方にも工夫が必要。注意される方も謙虚に耳を傾ける姿勢でなければならない。

大事なのは、正しい判定をする上で「もっといい位置はなかったか、もっといい動きはできなかったか、もっといい裁きはできなかったか」を常に追求することである。